

今月の論語

誅に曰う上下の  
神祇にいのる

しのびことばに申します。  
天の神、地の神にお祈りすればよいと。

今月の帰宅放送は、東原岸舎東部校9年の倉富莉緒さんです



多摩市郷土資料館長 藤井伸幸

○如来は、真理に到達し修行を完成した者を称します。  
○白毫は白い毛で光明を放ちます。  
○来迎印は、阿彌陀如来が極楽浄土から迎えに来る時の印です。  
○銘の六十四番は、現在の愛媛県西条市にある前神寺です。

野の仏ギャラリー②  
阿彌陀如来坐像  
光背と坐像と蓮華台が一体化しています。光背は円形の頭光と楕円の身光からなっています。頭部に螺髪と隆起した肉髻を刻み、額に白毫があります。左右の手は親指と人差し指で輪を作り来迎印としています。袈裟が蓮華台まで垂下しています。阿彌陀は古代インドの言葉を漢字で音写したものです。類似する像を大字小侍にも確認できます。

北多摩町大字多摩原

連載

教育長コラム

ちょっといい話



「子どもたちへ」

ピアノリストの辻井伸行さんは国際ピアノコンクールで優勝した盲目の方です  
つまり 楽譜も鍵盤も見えませんが自分のハンディに気がついた時にまっ、いいか。ピアノができるからと 気持ちをきりかえたそうです  
こんな才能は誰にでもありません  
でも 良いところは必ずあります  
あいさつができる  
うそはつかない  
漢字は得意 とか  
たとえばそれが  
コンクールで優勝したり  
表彰されることではなくても  
良いところは自分がわかっている  
だから  
それを大切に それを誇りに  
自信をもって生きましょう  
応援しています

教育長 田原優子

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- 宇宙よりわが住む地球を俯瞰せば  
青く清らかに輝きわむ  
浦野 嘉恵
- 神様がメモをするほど完璧な  
文が書きたい欲張りすぎかな  
野崎 隆幸
- お前が側にいたから俺は生きられた  
夫のひとことオリパラの夏  
梶原恵美子
- 冷や麦に浮かせし水ひそやかに  
溶けゆくが聞ゆ独りの屋敷  
川浪 信子
- 厳正なこの世のテンポに沿えぬこと  
なりたる事の自覚は深し  
尾形 節子

俳句 《互選》

- 雨戸繰り二度も見上ぐる星月夜  
中嶋 清子
- 朝焼の風の中ゆくレトリバー  
富樫 明美
- 籐椅子の屋の微睡舟をこぐ  
本村 則子
- 涼風に大の字に寝る保育の子  
おおやはな
- かき氷舌を真つ赤に五年生  
武富 律子

川柳 《多川柳会 選者吟》

- 日々増える数字に慣れる恐ろしさ  
高塚 ちかこ
- 夏のオレ青菜に塩をかけたよう  
松下 修
- ストレスも共に巻き込む卵焼き  
大谷 和
- 故人との尽きぬ想い星が明ける  
中尾 和弘
- アルコール手や胃袋も消毒し  
三塩不二子